

飯館村彷徨記

2014.12.31. 福間・記

私は、12月8日(月)に飯館村に行って来た。実は、第4回阿武隈高地放射線量測定の旅として野手上山を当初の予定にしていたのだが、現地でその登山口は分からず急遽飯館村の散策に変更したのである。

野手上山は、飯館村の南東にある標高628.6mで「うつくしま百名山」である。福島第一原子力発電所からは、北北西NNW320°直線距離にして31.6kmにある山である。そして現在「帰還困難地区」になっている長泥地区と「居住制限区域」になっている蔵平地区の近くにある山である。

飯館村へのアクセスについては、事前にネットでいろいろ調べてみたがどうもハッキリしない。とにかく、行けるところまで行こうと決めて、出かけることにした。千葉県のが酒々井町の始発電車(5:05)に乗り、東北新幹線と福島交通バスを乗り継いで、福島交通のバス終点[川俣高校前]に着いたのはちょうど10:00であった。直ちに事前に調べておいた[川俣タクシー]に電話し、「飯館村に行ってもらえますか」と聞くと、行ってくれる、との返事であった。15分ばかり待つと、タクシーが来た。すぐに車に乗り込み、タクシーの運転手さんに「あまりお金を持ってきていないので、メーターが5,000円になったところで下してください」と頼む。タクシーの運転手さんと20分余りいろいろな話をする。するうちに警察のパトカーが進行方向からやって来た。私はタクシーの運転手さんに「こんなところにパトカーが走るのですね。」と言うと、運転手さん「この土地の家には一時期「留守泥棒」が多かったので、パトロールしているのでしょう」と。また、各地区には、部落ごとに自警団のようなものもある、との話し。途中でタクシーの運転手さんはガソリンスタンドに立ち寄り、野手上山の方向を私の5万分の1地

図を見せながら聞くも、このスタンドの人もあまりよくはご存じ無いような応答振り。するうちにタクシーのメーターが5,000円となったが、親切な運転手さんは、「せっかく千葉から見えたのだから、メーターを倒して野手上山の登山口まで行ってあげましょう」と。しかし、数km走っても[野手上山登山口]の看板は見つからない。私は、運転手さんに申し訳ない気持ちから、「ここで下してください」と言って降車する。が、降りたものの、自分の現在地が地図上のどこなのか分からない。兎に角歩けば、どこかに道路標識か電柱かに地名が分かるものがあるはずだ、と山の方に向かって歩き始める。1kmばかり歩いたところで[ここは小宮・前田地区]の標識を発見する。

やっと自分の現在地が判明。[野手上山登山口]からは5kmばかり西方に来ていたことが分かった。時計を見ると「登山計画書」より大幅に予定時間を超えている。これでは、今日うちに登山は無理と判断し、登山は諦め、帰路の予定バス時間まで飯館村の線量

測定しながら飯館村役場まで12km歩くことにする。小宮・前田地区から飯館村役場まで飯樋川沿いと新田川沿いの県道と村道を歩く。以下、この間で私が見た風景について述べる。小宮・前田という所から山辺沢、クツワ掛、曲田、沼平、橋場、関沢、草野という地区を経て飯館村役場前の丁字路まで歩く。

[ここは飯館村関沢字橋場]の道路標識を見つけて、はじめて自分の現在地に確信を持つ。



「うつくしま百名山 野手上山 4 km 飯館村小宮行政区」の看板



「ここは飯館村 関沢字橋場」の道路標識



飯舘村・どこに行ってもこの風景

県道飯舘浪江線の沿線は、全てこの写真にある「除染作業中」ののぼり旗とフレコンバッグと、全国各地から集まって来ている工事関係者の乗用車と建機ばかりである。これらの車輛には全て、施工業者である「大成・熊谷・りんかい日産・村本 JV」のステッカーが貼り付けてある。また道路沿いの空き地には全国各地から集まって来ている、まさに老若男女の除染作業者を乗せて来ている大型観光バスも駐車している。たまたま車から

降りてきたバスの運転手さんに短い話をする。「今日はどこから来られたのですか」と尋ねると「三春町の宿舎から来た」と。毎朝・毎夕に作業員の送迎をしているとのこと。



県道沿いのフレコンバッグ



除染作業中

「年配者も若者も結構きつい作業で大変ですね」と言うと、「いや、ただ来ているだけ、という作業員もいる」のだと。「日当は 15,000 円から 2 万円

くらいだと聞くけど、いい稼ぎにしている人もいる。線量が高いところで働く人ほど日当が高い」ともこのバスの運転手さんは言っていた。そう言えば、私の職場に居た若者も「フクシマの除染作業」に行っている者がいる、と聞いたことがあるが、現実を見ると何か胸がつかえてくる。

【飯舘村・民家前のフレコンバッグ】(写真)：この地方の民家は、雨戸が



民家前のフレコンバッグ

ガラス戸になっているのか、一見人が住んでいるように見受けられるが無人である。国（環境省）は、各民家の「除染」を優先しているようで、殆どの民家の周辺にはこのフレコンバッグが置き去りになっていた。

【飯舘村・木を伐採し山肌を除染作業中、手前は荒れ果てた田畑】(写真)：今朝のタクシーの運転手さんの話によれば、小さい木（直径何cm以下は知らないが）は伐採し、山も「除染」している、のだと。山林を全部伐採したら、大雨による土砂災害を心配しているのだろうか。



木を伐採し山肌を除染作業中、手前は荒れ果てた田畑

【飯舘村・ため池等汚染拡散防止対策実証事業

施工 あおみ建設株式会社】(写真)：この看板に掲示されている「実証事業」とは、どんな作業だろうか。後日帰宅してから「あおみ建設(株)」を検索してみると、旧佐伯建設工業(株)と旧国土総合建設(株)が合併して出来た資本金 3



ため池等汚染拡散防止対策実証事業 施工 あおみ建設株式会社

億 55 百万円の会社（本社・東京港区）である。

【飯館村最終処分場】、【飯館村・蔵平 減容化施設】（写真）：どんな設備か、見学してみたいところだが、距離的にも時間的にもその余裕がないので、パス。この看板の「IHI 環境・日揮・熊谷組 JV」の文字にも私の関心は向く。この JV いずれも私がかつて仕事で若干知っている会社名だからだ。

このほかにも私は多くの写真を撮ったが、ここでは割愛する。しかし、上で述べた写真の文字でネ

ット検索すれば、様々な情報は入手できる。その 3 例を示す。『飯館村-除染情報-環境省』、『飯館村蔵平地区における可燃性廃棄物減容化事業について 環境省』、『来月から本格運転 飯館村に仮設焼却炉完成』。

皆さん方も、もし関心がある方は、これらのサイトをご覧ください、「除染」ということがどんなことなのか、一緒に学び、国の除染作業にどこにどんな問題があるのか、抽出できたら、との思いでいます。今後もしもできるだけフクシマの汚染地帯 80 km 圏内に足を踏み入れ、私の見た汚染地帯の実態を広く伝えて行こうと思っています。

【追記】野手上山に行くために、事前にネットで[JR 福島-川俣-南相馬]の福島交通のバスの



飯館村最終処分場



蔵平 減容化施設

時刻表を調べてみた。

1日4本のバスはあるが、それには各バス停毎に[乗車][降車]と記載があった。この意味が分からなかった。帰路、川俣営業所に行き、この意味を聞いてみた。すると、この路線の国の営業許可では、場所（飯館村など）によって乗車のみできる所と降車のみができる所が決まっているとの事であった。

国はこんな小さいことに口を挟むのか。利用者の便宜をどう考えているのか、腑に落ちなかった。

【参考】[飯館村彷徨記録\(2014.12\)](#)

【第4回阿武隈高地の放射線量測定の日歩き記・完】